

# 26年4月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 3月20日～ 26年4月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
4月分の回答企業数は15社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/4月	5月	6月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 26.9	△ 19.2	△ 23.1
	マツ	△ 9.1	△ 13.6	△ 18.2
	広葉樹	△ 16.7	△ 16.7	△ 20.0
消費動向	スギ・ヒノキ	8.3	8.3	8.3
	マツ	4.5	0.0	△ 4.5
	広葉樹	4.2	△ 15.4	△ 7.7
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 42.9	△ 30.8	△ 30.8
	マツ	△ 20.8	△ 29.2	△ 20.8
	広葉樹	△ 33.3	△ 33.3	△ 36.7

原木の入荷は、スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹とも減少傾向で推移。スギ・ヒノキ原木の消費はやや増加傾向で推移、マツは4月の微増が5月の横ばいを経て6月は微減に、広葉樹は4月の微増が5月、6月は減少へ。在庫はいずれの品目についても減少傾向で推移。

### (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/4月	5月	6月
スギ・ヒノキ	15.4	15.4	7.7
マツ類	8.3	16.7	8.3
広葉樹	6.7	3.3	3.3

スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹原木の購入価格は、やや強保合で推移。

## モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・スギ・ヒノキ原木の仕入れは、労働者の減少、積雪により減少、翌月、翌々月も伐採時期としては悪くなるので出材減と予想。マツ原木の出材はほとんど無い。広葉樹原木は仕入れ先が自伐業者及び工事支障木で大きな変動は無い。針葉樹チップの消費は使用減の製紙工場もあるが全体的には横ばい、広葉樹も横ばい。いずれの品目も入荷減で在庫は減少。スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹とも仕入れ、消費及び在庫に変動なし。
- ・スギ原木は生産に合わせた仕入れ、広葉樹は出荷増え始めたが生産に見合った仕入れ。スギ原木の消費は注文に応じた生産を行っており、広葉樹は計画に応じた生産。
- ・ゴルフ場からマツの雪害木がかなり入ってきている。
- ・立木在庫とスギ材伐出との関連で広葉樹原木は今年から入荷減少の見通し。出材は強含みだが素材不足が懸念される。4,5月から入荷不足になり在庫減となる見通し。
- ・スギ原木はバイオマス向けに集荷されているので、入荷は減少し、今後の入荷が心配される。広葉樹は毎月変動なく入材されている。
- ・針葉樹及び広葉樹とも天候安定により順調に入荷と予想。
- ・ある製紙会社関係で針葉樹チップの集荷量が大幅に減少しており価格上げと増集荷に動いている。針葉樹原木の増集荷、増生産している。針葉樹原木在庫は減少。
- ・スギ・ヒノキは民有林から変わらず入荷、26年度上期国有林システム販売が5月ころから入荷するため入荷増見込み、マツ及び広葉樹は支障木主体に入荷し変化なし。スギ・ヒノキは発電用チップ単価が採算合わず出荷減、製紙用は増産可、広葉樹製紙用チップも増産依頼があり、スケジュール許す限り生産。来年度使用に向け発電用間伐材在庫増やしているが、製紙用原木は消費順調で在庫減少気味、広葉樹原木在庫は変わらず。
- ・雪解けで仕入れやや減、広葉樹原木の消費増加、在庫減で不安。

(原木価格)

- ・FIT対応間伐材は大幅に単価上がった。製紙用スギ・ヒノキ丸太は小幅に上げている。マツ及び広葉樹は変わらず。
- ・価格変わらず。
- ・針葉樹原木はFITの影響及び針葉樹チップ集荷減少に伴い原木価格上昇。
- ・チップ価格が少し値上げされたが、トラック運賃の値上げにより原木の値上げにならず。
- ・木質バイオマスの関係もあり今後の原木購入価格は変動する可能性がある。
- ・税込み価格のため消費税の見直しがある。
- ・消費税分のみアップ。・広葉樹原木がやや上昇。

## 26年4月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/4月	5月	6月
生産動向	スギ・ヒノキ	8.3	0.0	0.0
	マツ類	0.0	4.5	△ 4.5
	広葉樹	△ 14.3	△ 10.7	△ 17.9
出荷動向	スギ・ヒノキ	4.2	0.0	0.0
	マツ類	4.2	4.2	△ 4.2
	広葉樹	△ 6.7	△ 6.7	△ 13.3
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 45.5	△ 45.5	△ 45.5
	マツ類	△ 25.0	△ 35.0	△ 40.0
	広葉樹	△ 41.7	△ 41.7	△ 41.7

スギ・ヒノキチップの生産・出荷は、4月のやや増が5,6月には横ばいに、マツは4,5月の横ばいなし微増が6月にはやや減に、広葉樹は減少傾向で推移。  
スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹チップの在庫はいずれも減少傾向で推移。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し) W.

品目	26/4月	5月	6月
スギ・ヒノキ類	11.5	7.7	7.7
マツ類	12.5	8.3	8.3
広葉樹	10.0	6.7	6.7

スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹チップの出荷価格は、いずれもやや強保合で推移。

## モニターからのコメント

## (木材チップ荷動き)

- ・製紙会社によっては使用の変動があるが、生産は、トータル的には横ばい。ボード及び燃料も安定使用。出荷は、いずれの樹種も横ばい。在庫は、入荷減で減少状態。
- ・スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹とも生産、出荷及び在庫に変動なし。
- ・スギは注文に応じた、広葉樹は計画に基づき生産・出荷。
- ・広葉樹チップの生産は3月とおおむね同じ、出荷もおおむね順調、チップの在庫はない。
- ・スギ・ヒノキの生産量を増産するよう要望されているが、原木入荷が少ないので、広葉樹の出荷が多い月と交互に生産している。
- ・針葉樹チップは原木チップの単価が4月から値上げ。ボード、燃料用は在庫調整中で生産量は横ばい。針葉樹チップは製紙会社からの増出荷の要請があり、対応中。ボード、燃料用は出荷量増えず。在庫は針葉樹チップは減少、ボード、燃料用は増加、広葉樹は在庫なし。
- ・全樹種とも製紙用はフル生産。特にスギ、ヒノキチップの増産依頼がある。竹もできる限り生産。発電用チップは間伐材単価上がり、チップ単価が合わず生産中止。チップの在庫はない。
- ・広葉樹チップの生産・出荷がやや増加。

## (木材チップ価格)

- ・スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹とも出荷価格に変動ない。
- ・スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹とも価格未定も値上がりがある模様。
- ・広葉樹は4月から若干の値上げ。
- ・広葉樹チップの某製紙会社の値上げは4月からとなる。消費税分のみUP。
- ・スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹とも出荷価格は変わらず。
- ・製紙用は変化なし。FITは丸太のみ上がりチップ価格は変わらないので決裂。
- ・針葉樹チップは4月から一部値上がり、広葉樹は横ばい。
- ・4月分から少し値上げ。
- ・US\$が80円から現在の102円に至るまで、ほとんど値上げがない。かつては、円安につれてチップ価格は上昇していた。紙需要の落ち込みは解るが為替変動ほどではないと思う。